



夏季特別学習会 報告

南筑後外国語(英語)科研究サークル
会長 大川市立田口小学校 校長 横大路 智毅

8月26日(土) 13:30 ~ 16:30 柳川市大和生涯学習センターにて

テーマ 「小中の英語教育で求められるもの ～次期学習指導要領を踏まえて～」

講師 信州大学教育学部教授 酒井秀樹先生

朝夕も随分と涼しくなり、少しずつ秋の気配を感じるようになりました。夏休みもあっという間に過ぎ、大きな学校行事または研究発表会と、また慌ただしく2学期をスタートされていることと思います。

さて、本年度も8月26日(土)柳川市大和生涯学習センターにおいて、本サークル恒例の夏季特別学習会を開催しました。小学校英語の教科化、それを受けて中学校から先の英語教育はどうあるべきかといった内容について信州大学教育学部教授である酒井秀樹先生を講師としてお迎えし、参加者とともに多くを学ぶことができました。

今回は、小学校、中学校、県・市町・指導主事、英語教育関係者…65名の方々に参加していただき、小学校外国語教育の早期化・教科化に向けて校種を越えた先生方とともに充実した学習会となりました。

(文責: 田中、古川)

講師 酒井秀樹先生 プロフィール

- ★信州大学 教育学部 教授
 - ★小学校外国語活動をはじめ、中学校・高等学校における外国語教育(英語)指導を専門
 - ★次期学習指導要領改訂に向けたワーキンググループメンバーとして活躍
- 【著書】
「教育の最新事情がよく分かる本3」(共著 2016 教育開発研究編)
「新しい英語教育の展開」(共著 2016 玉川大学出版)
「小学校の外国語活動 基本の『き』」(2014 大修館書店)
「小中連携を意識した中学校英語の改善」(共著 2013 三省堂)



学習会での内容紹介

○授業だと思える授業のポイント

- ・聞くこと、読むこと ・考えること ・関わること

○コミュニケーション : 互いに聴きあったり、伝え合ったりする工夫が必要

【演習】「ひまわり」「友情」といった言葉からイメージする色を同時に言い合うゲーム

○正しさよりも適切さ : 自分の意図を正しく伝える

目的・場面・状況に応じてコトバを使わせよう!

○教科化について

- ・「慣れ親しみ」と「定着」 ・学習指導要領について

○改訂後の中学校学指導要領について

言語活動が変わる! 言語材料の練習は言語活動ではなくなる。今、実施している活動は本当に言語活動か?

ゲームをいかに(英語での)コミュニケーションにつなげるかを考える必要がある!!

本物の場面で、本当にその答え方は適切なの?

【買い物の場面】

A: Which T-shirt do you want?

B: すかさず、Blue!!

B: …かなりの時間が過ぎて
I want blue.

小学校での外国語の教科化がどのような感じで進んでいくのか知ることができました。また、このように熱心な先生方がいることに刺激を受けました。また参加させてください。
大川市小学校教員

「慣れ親しむ」と「定着」の違いを知り、この2つを意識して授業を作っていくしたいと思います。また、自分の意思を正しく伝えるということへの認識のズレについて、酒井先生のお話を聞いて気付くことができ、伝えたい思いを伝える活動を仕組みたいと思いました。わかりやすく、とても勉強になる時間でした。
みやま市小学校教員

酒井先生の自己紹介「自分の名前には3つaがあるが、みなさんはどうか？」ということから、隣の人との自己紹介が始まり、とても楽しく活動することができました。自己紹介の中で、知っている先生でも新たな気づきがあったり、自分のことを伝えたいとおもったりすることができ、このような活動を子ども達にしていく必要があるのだと感じることができました。
子どもが、「伝えたい!」「聞きたい!」と思う授業を仕組めるように頑張りたい。
みやま市小学校教員

外国語科へ向けて、授業展開のポイントを簡潔にわかりやすく教えていただいた。特に、具体的にどうするのか例を示していただいたので、授業場面がイメージできた。「そこは日本語でいいよ。」などは私から言ってしまうところもあった。また、ジャンケンからの活動も・・・。(日常の会話はジャンケンから始まらない) Small Talk も含め、子ども達が頭で考えて、自分なりに伝えようと思て出る「ことば」を大切にしていきたい。また、そのことばを拾って、子ども同士のコミュニケーションをつなげていきたい。定着につながるよう、既習事項を使える活動を仕組んでいきたい。

授業の中で子ども達にどのようにコミュニケーション活動を行わせていくのか、体験を通じて知ることができました。グループをつくる際にも、言葉に出して、ジェスチャーをつけて、相手との関わりをつくっていくことが大切だと思いました。「目的・場面・状況に応じて」という部分がなければ、ただ言葉を口に出すだけの練習になり、生活の中で使えるようにはならないと思います。これからも、子どもの思いを大切にしたいと思います。また、CAN-DO リストにおいても、子どもの実態をしっかり捉えた上で、目標に照らし合わせて評価していくことが大切だということがわかりました。自分の目の前にいる子ども達をしっかり見つめながら、実践を重ねていきたいと思います。
那珂川町小学校教員



新学習指導要領の中で「目的・場面・状況」に合わせたコミュニケーション活動について、演習を通じて学ばせていただきました。自己紹介一つをとってみても、目的・場面・状況で変わる…なるほどと思いました。とても学びの多い研修会でした。また、書籍の販売も大変ありがとうございました。
久留米市中学校英語教員



例を挙げながら、演習を入れながらの講演がとてもおもしろかったです。中・高で目指すところが高いということもわかりました。何回か聞く内容ではありましたが、しっかりと理解できました。
小学生の場合、新しい語彙をどこまで伝えるのか難しい場面があります。言いたくても聞く方に伝わらなければ…どこまで教えるのか悩むところです。
目標をどこに据えて、どのような力をつけるのか、教員が見通しをもっておこななければならないと思いました。ドリル学習はあまり取り入れない方がよいという考えもありそうですが、私はコミュニケーションを図ることができる技能を身につけるためには大切だと思います。何か良いドリル学習がないか知りたいです。
大牟田市小学校教員

新学習指導要領と現行のものとの違いが少し見えてきました。小学校での外国語科の教科化決まってから、少しずつ不安が高まっていたのですが、今やるべきことが見えてきました。
具体的には、グループを作る時にも英語を使わせる、自然に会話がはずむトピックを与えてディスカッションにつなげられるなど、中学生にも十分刺激になる活動を学ばせていただきました。
これから中学校英語教員として、小学校(特に地元)の動向をより注意して見ていく必要があると感じました。
私立中高一貫校中等部英語教員

「腑に落ちる」酒井先生のお話でした。目的、場面に応じた活動の設定は、意識しているものの、「文法」を教えることが先行してしまっている自分に気がつかされました。パターンプラクティスにも意味のあることをしなければならぬと感じました。目的、場面、状況に応じた「ことば」を使うことで、子ども達は感得していくのだと今日の演習体験で再確認しました。
小・中・高における外国語学習の目標はコミュニケーション能力を身につけること。連携を更に密にし、子どもの持っている力を引き延ばす授業を展開していきたい。
八女市中学校英語教員

自分の授業を今後どう組み立てていくのか、非常に参考になる内容でした。授業の中では、つい「そこは日本語でいいよ。」と言っていることがあります。授業中のあらゆるポイントにおいて、生徒の表現力を伸ばし、好奇心に応えるチャンスを与えていかなければならないと痛感しました。
小中連携、新学習指導要領実施に向けて、しっかり情報収集をしていきたいです。
柳川市中学校英語教員

コミュニケーションの大切さを1時間かけて演習したことで、教科化・早期化に向けて、まず大切にすべきことを改めて学ぶことができました。
500円で参加できるようにしていただいて大変感謝しています。南筑後地区の先生方が熱心に研修に取り組まれている中に参加させていただき、大変刺激になりました。地元でも研修を広げ、深めていけるよう努力したいと思います。
県教育センター指導主事